

企業におけるクラウドベースのディザスタ リカバリの障害と導入促進要素

2012 年 3 月

はじめに

企業の IT 部門は現在、重大な課題に直面しています。ユーザーは、データ損失を被ることなくシームレスに 24 時間年中無休でサービスが提供されることを期待しています。それと同時に、データが爆発的に増加して、ますます複雑な異機種環境となり、緊縮予算が続いています。データ損失を最小限に抑えながらノンストップのサービス提供を保証するディザスタ リカバリ モデルを構築する必要性があるものの、その実現は容易ではなく、コストも安くありません。企業は、現在の市場においてビジネスに最も有益だと思われるディザスタ リカバリの利用可能なオプションと方法を探し続けています。ディザスタ リカバリの従来のアプローチは、組織にコストとスピードのどちらかの選択を迫るものであり、多くのアプリケーションが適切に保護されていない状態に置かれています。クラウドでのディザスタ リカバリ環境の稼働は、企業にとって、高いコストをかけずに迅速なリカバリと最小限のデータ損失を可能にする選択肢となります。

この Technology Adoption Profile では、これらの機能の重要性とともに、グローバル企業がパブリッククラウドをディザスタ リカバリに活用するメリットを検討します。

ディザスタ リカバリ アズア サービスはグローバル企業にとって必要不可欠

当社が毎年実施している IT 部門責任者を対象としたハードウェア調査で、企業のディザスタ リカバリ アズア サービス (DRaaS) を導入する計画について尋ねました。このサービスは、サービスプロバイダーの仮想インフラストラクチャをベースにした、IT リカバリ アズア サービスとしても知られています。Forrester では DRaaS を、クラウド環境で、RPO (※1) および RTO (※2) に基づいて標準的な DR フェイルオーバーを提供するパッケージ化されたソリューションとして定義付けています。企業の 23% は今後 12 か月間に、DRaaS の導入を拡張/アップグレードするか、導入を計画していることがわかりました (図 1 を参照)。さらに、企業の 36% は、導入に関心があるものの、即時導入の予定はないと回答しました。これらの新しい技術は導入および関心のレベルが高く、ディザスタ リカバリとビジネス継続性機能のアップグレードに企業が重点を置いている昨今、そのレベルはさらに高まる可能性があります。企業の 56% は、これらの機能をハードウェア/IT インフラストラクチャの最優先事項として挙げていました (図 2 を参照)。

(※1) RPO:Recovery Point Objective

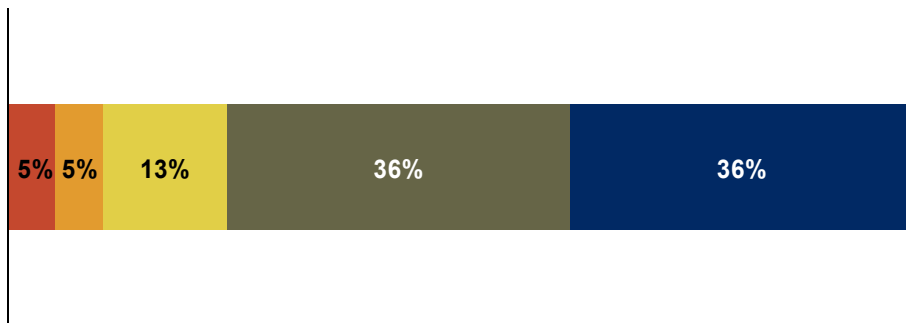
(※2) RTO:Recovery Time Objective

図 1

3分の2の企業はDRaaSへの関心を示すか、すでに導入済み

「サービスプロバイダーでの仮想インフラストラクチャをベースにしたITリカバリアズア
サービスを導入するための貴社の計画は、どのような状況ですか？」

- 導入済み、さらに拡張/アップグレードを計画
- 導入済み、拡張なし
- 導入予定
- 関心はあるが、計画なし
- 関心がない



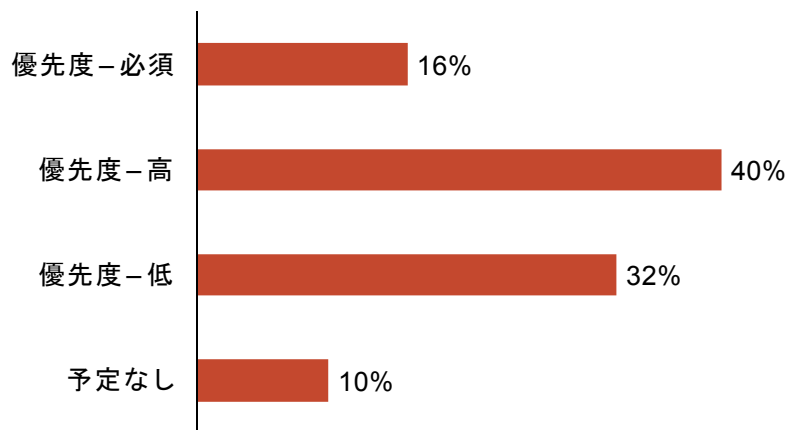
調査対象: グローバル企業のIT部門責任者 1,290名

出典: Forrsights Hardware Survey (2011年第3四半期)、Forrester Research, Inc.

図 2

企業の大部分はBC/DR機能のアップグレードを優先または最優先に考えている

今後12か月間に、ディザスタリカバリとビジネス継続性機能の購入またはアップグレードは、貴社/組織の
ハードウェア/ITインフラストラクチャの最優先事項ですか？



調査対象: グローバル企業のIT部門責任者 2,343名

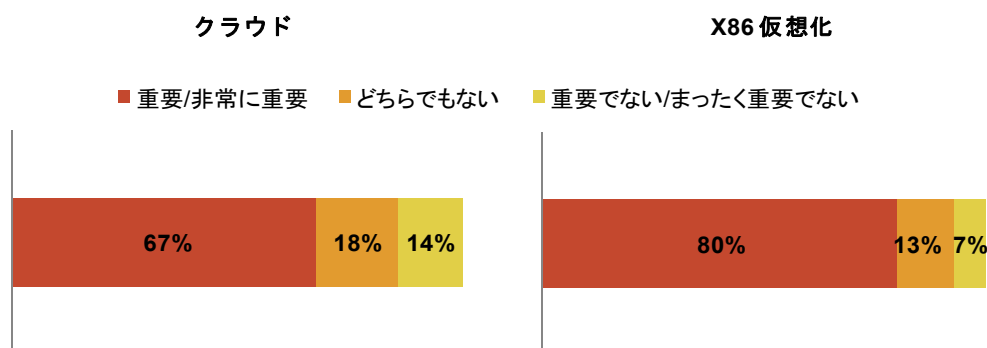
出典: Forrsights Hardware Survey (2011年第3四半期)、Forrester Research, Inc.

ディザスタ リカバリの改善が企業のクラウドと仮想化の導入を促進

世界中の企業は、システムのダウンタイム時間が収益、顧客ロイヤルティ、およびワーカーの生産性に直接影響を与えることを知りつつあります。技術は進化を続けていますが、ディザスタ リカバリは複雑でリスクが大きいため、また他の優先事項があるため、IT 責任者は依然としてこの課題に苦慮しています。2012 年に入り、IT 部門責任者はクラウドと仮想化を、インフラストラクチャを改善するための方法として期待を寄せています。ディザスタ リカバリ機能の購入とアップグレードは優先事項であり、企業はこの2つを統合する方法を模索しています。グローバル企業の IT 責任者の 67% は、DR およびビジネス継続性が IaaS の計画または導入にとって重要であり、80% は x86 仮想化の計画または導入にとって重要であると述べていました (図 3 を参照)。

図 3

貴社が以下を導入する決定において、ディザスタ リカバリとビジネス継続性はどの程度重要でしたか?



調査対象: IaaS を計画中または導入済みのグローバル企業の IT 部門責任者 307 名

*調査対象: x86 仮想化を計画中または導入済みのグローバル企業の IT 部門責任者 1,024 名

出典: Forrester Hardware Survey (2011 年第 3 四半期)、Forrester Research, Inc.

クラウド環境のディザスタ リカバリへの関心

Forrester はクラウドベースの DR ソリューションを、次の 3 つの主要なカテゴリのいずれかに当てはまるものとして定義付けています。これらのカテゴリは、自己運用型 (DIY)、DR アズア サービス (DRaaS)、クラウドツークラウド (C2C DR) です。モデルにはそれぞれ、明らかなメリットがあります。クラウドモデルの DIY DR は、コスト効率がよく柔軟性がありますが、企業のインフラストラクチャおよび運用 (I&O) チームにはクラウドと DR の両方の専門知識が必要です。パッケージ化された DRaaS ソリューションは、サービスプロバイダーから利用回数制で購入します。サービスプロバイダーは、エージェントを配備してデータおよびアプリケーションを複製するか、またはイメージベースのバックアップを使用してデータをクラウドに送信します。C2C DR は、3 つの中では最も利用されていませんが、確実に増加傾向にあります。企業はあるクラウドデータセンターから別のデータセンターにインフラストラクチャをフェイルオーバーできるからです。

IBM は 2012 年 1 月に、米国、英国、およびインドの IT 部門責任者が現在ディザスタ リカバリをどのようにプロビジョニングしているかを詳しく調査するよう Forrester Consulting に委託しました。75 名の回答者を対象とした調査で、その 63% が社内で DR プロビジョニングに取り組んでいると回答しました。残りの 37% はマネージドサービスプロバイダーにアウトソーシングしていると回答しました (図 4 を参照)。ディザスタ リカバリをアウトソーシングしている組織の大部分は現在、従来のコールドサイト プロバイダーまたはマネージド サービス プロバイダーと提携しています。長期的に見ると、市場に提供されるクラウドベースのディザスタ リカバリのオプションが増え、ソリューションの完成度が高まり、より多くの信頼できる大手ベンダーが市場に参入するにつれ、Forrester はこの割合がさらにアウトソーシングに傾くと考えています。

図 4
企業の大部分は現在 DR 機能を社内でプロビジョニングしている

現在ディザスタ リカバリのプロビジョニングに主に利用しているのはどの方法ですか？



調査対象: グローバル企業の IT 部門責任者 75 名

出典: IBM からの委託により Forrester Consulting が実施した調査 (2012 年 2 月)

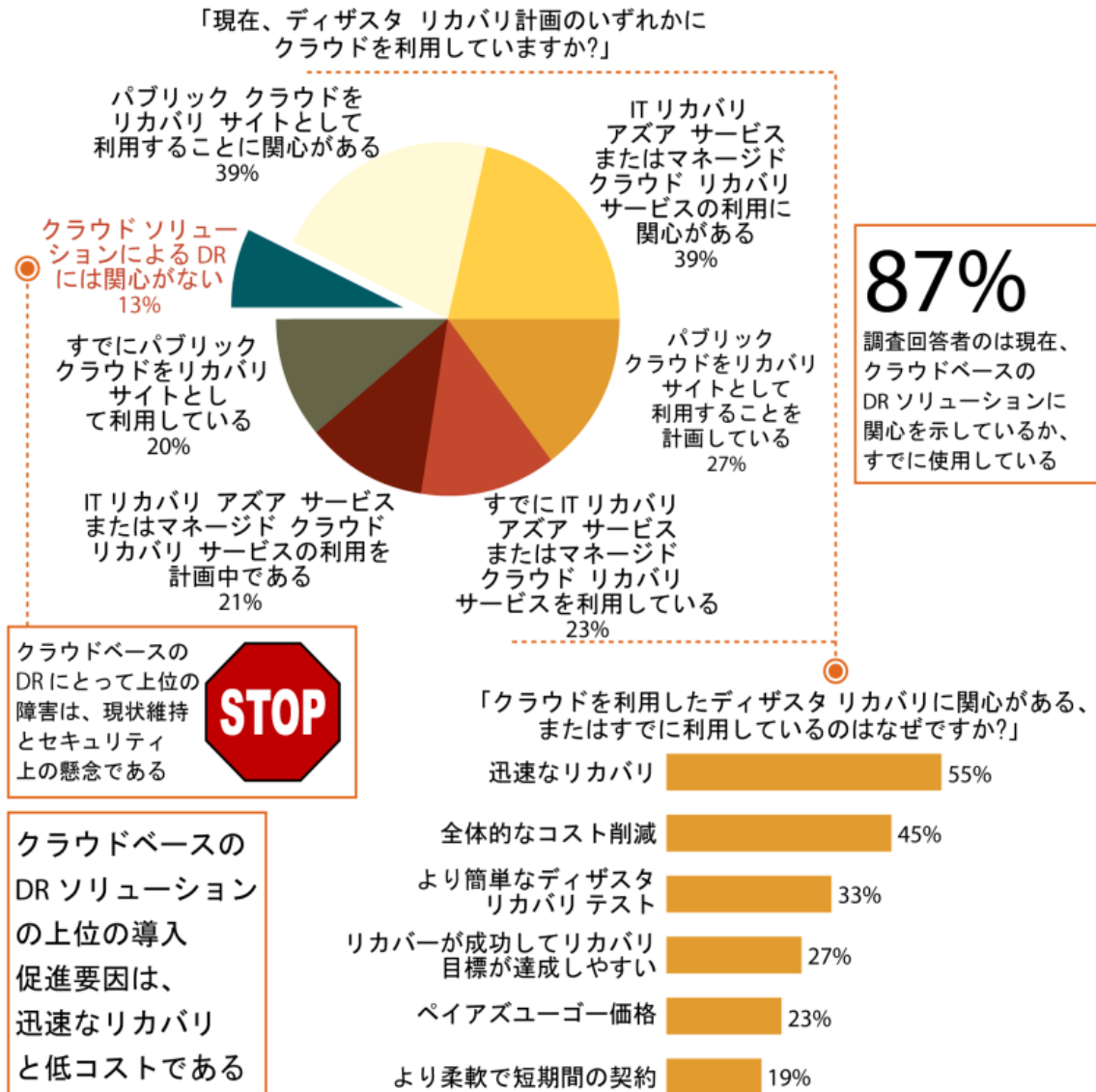
当社は、これらの企業がクラウドまたは他のリカバリ アズア サービス ソリューションをどの災害時計画に利用しているかをさらに調査しました。回答者の 3 分の 1 (39%) 以上が、リカバリ サイトとしてクラウドを使用する (すなわち、クラウド環境の DIY DR) か、DR アズア サービスまたはマネージドクラウドリカバリ サービスでクラウドを使用することに関心を示しています (図 5 を参照)。さらに、回答者の 27% はクラウド環境の DIY DR を配備する計画を、21% は DRaaS を配備する計画を立てていました。クラウドは、多くのサービスおよび製品にとって成功するオプションとして実証されており、DR は明らかにその最新の例です。

企業はクラウドに迅速なリカバリと低コストのDRを期待

他の新しい技術の傾向やソリューション、サービスと同様に、リカバリアズアサービスソリューションを早期に導入する企業にはメリットと課題の両方があります。メリットには、より簡単で頻度が高く低価格のテストに加えて、より柔軟な価格設定オプションや迅速なリカバリなどがあります。調査対象の回答者の半数以上(55%)は、迅速なリカバリのためにクラウドベースのDRを導入することに関心を示し、残りの45%は、全体的なコスト削減を優先していました。この数年間にわたり、IT運用および資本予算におけるBC/DRへの支出は、約5%と厳しい状況が続いているため、企業が低コストで機能を拡張できるソリューションを探していることは、驚きに値しません。²上位3位の回答をまとめると、テストの容易さになります。これもまた、企業にとって共通の泣き所です(図5を参照)。³これまでテストに関する最大の障害の1つは、人材が限られていることでした。DRをクラウドに移行すると、自動化が可能となり、ITスタッフによる手作業が軽減します。

このソリューションはまだ導入の早期段階にあるので、当然ながら、ほかにも障害があります。クラウド環境で稼働すると、セキュリティとコンプライアンスの達成がより困難になります。このことは、パブリッククラウドの導入にとって最大の障害と見なされてきました。企業は同じセキュリティポリシーに従う必要があり、DRの場合も同様です。ただし、調査回答者の87%は現在、クラウドベースのDRソリューションに関心を示しているか、すでに使用しているため、これらの問題は克服できるのです。もう1つのよくある導入の障害は、企業がレガシーハードウェアを使用しているか、ベンダーがそれらをサポートしていないため、企業が使用しているアプリケーションの多くがクラウドまたは仮想化環境での稼働に耐えられないということです。この課題を抱える企業はこれまで、DRに対して柔軟性に欠けるアプローチを取り入れ、すべてのシステムを同じアプローチで保護してきました。しかし、他のモデルが登場するにつれ、プラットフォームまたはシステムの重要度によってリカバリアプローチを分割する企業が増えてきました。今後は、多くの企業がリカバリに対して多層のアプローチを取り入れるでしょう。メインフレームアプリケーションに従来のコールドサイトを使用するとともに、オープンシステムにはマネージドサービスまたはクラウドリカバリを使用する可能性があります。

図 5
クラウドベースの DR の導入、導入促進要素、および障害



調査対象: グローバル企業の IT 部門責任者 75 名

出典: IBM からの委託により Forrester Consulting が実施した調査 (2012 年 2 月)

重要ポイント: 企業の IT 部門責任者はクラウドベースのリカバリ ソリューションを評価する必要がある

75 社を対象とした調査で、外部でホストされたクラウドをディザスタ リカバリに利用することに関心がないと回答したのは、わずか 13% でした。この無関心の理由として上位に挙げられたのは、企業が現在の DR アーキテクチャーに満足しているか、クラウド環境のセキュリティ、コンプライアンス、および管理上の問題を懸念していることでした。クラウドベースの DR の導入が今後数年間にわたって続くことは疑いありません。製品およびサービスをそれに対応するよう準備する必要があります。セキュリティおよびコンプライアンスのリスクおよび障害と、コスト低減、リカバリの増強、実施が容易なテストの利点を比較検討すると、世界中の企業がクラウドベースの DR の実装を続けており、この傾向が引き続き拡大していくことは明らかなようです。リカバリの一部をクラウドに送信する可能性をまだ検討していない IT 責任者は時代遅れです。計画を始める 때가来たのです。

調査方法

この Technology Adoption Profile は、IBM の委託により独自に実施されました。この TAP は Forrsights Hardware Survey (2011 年第 3 四半期) および Forrsights Budgets And Priorities Tracker Survey (2011 年第 4 四半期) に基づいています。さらにこのデータを補足するため、従業員 1,000 人以上の企業 (米国、イギリス、インド) の、ディザスタ リカバリに関連する技術およびサービスの計画および購入を担当している IT 部門責任者 75 人を対象に Forrester Consulting が独自調査を行いました。調査では、ディザスタ リカバリのプロビジョニング方法とディザスタ リカバリのパブリック クラウドの利用に関心がある理由に関して質問しました。補足の独自調査は 2012 年 2 月に実施しました。Forrester のデータ パネルおよび Business Technology Consulting サービスの詳細については、www.forrester.com をご覧ください。

Forrester Consulting について

Forrester Consulting は企業のリーダーがその組織を成功に導けるよう、独自の客観的なリサーチに基づくコンサルティングを提供しています。短期の戦略セッションからカスタム・プロジェクトまで、深い知識と経験を持つ Forrester Consulting のリサーチ・アナリストがお客様のビジネス課題に対応いたします。詳細については、www.forrester.com/consulting をご覧ください。

© 2012, Forrester Research, Inc. All rights reserved. 無断複製を固く禁じます。記載されている情報は入手可能な最良のリソースに基づいています。提案内容はその時点での判断に基づくものであり、変わる可能性があります。Forrester®、Technographics®、Forrester Wave、RoleView、TechRadar、および Total Economic Impact は Forrester Research, Inc. の商標です。その他すべての商標は、それぞれ該当する会社が所有権を有しています。詳細については www.forrester.com をご覧ください。[1-JYOIUN]

巻末の注

¹出典: 「State Of Enterprise Disaster Recovery Preparedness, Q2 2011」 Forrester Research, Inc.、2011 年 5 月 18 日

²出典: 「BC/DR Remain Priorities For 2012 But Take A Backseat To Cost-Saving And Efficiency Initiatives」 Forrester Research, Inc.、2011 年 10 月 24 日

³出典: 「Wake-Up Call: You Aren't Ready For A Disaster」 Forrester Research, Inc.、2011 年 2 月 9 日